

小学校における防災教育展開例の内容と特徴 — 都道府県教育委員会作成の防災教育冊子の分析を通して —

河野 崇¹⁾

1) 学会会員 大阪キリスト教短期大学 講師
e-mail : kohno@occ.ac.jp

Contents and characteristics of disaster prevention education development examples in elementary schools

— an analysis of a disaster reduction education booklet prepared by the prefectural board of education —

Takashi Kouno

Academic member, Osaka Christian College and Seminary

Abstract

This paper collects and analyzes examples of disaster prevention education developments published in the disaster reduction education booklet created by the prefectural board of education. The purpose is to understand what kinds of disaster concerned contents are being taught in subjects and educational activities and to clarify their characteristics. An analysis of disaster reduction education development examples created by each prefectural board of education showed the following trends, ① disaster reduction education development examples unique to the region, ② disaster reduction education development examples related to each subject, and ③ evacuation drills. The examples can be classified into three types of disaster reduction education deployment. In addition, it was found that the main subjects of class activities, social studies, science, life studies, and comprehensive learning are the main subjects used to create examples of development related to disaster reduction education in elementary schools. Furthermore, it became clear that the differences in the content of disaster reduction education in each subject were learned, and that class activities were the subject to learn about disaster response itself.

Keywords : elementary school, Disaster prevention education, Content analysis

要 約

本論文は、都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている、防災教育展開例を収集し、分析することで、今現在の小学校で、どのような教育活動で、どのような内容の防災教育が行われているのかを把握し、その特徴を明らかにすることを目的とする。各都道府県教育委員会が作成した防災教育展開例を分析したところ、防災教育展開例として、

①その地域独自の防災教育展開例、②各教科等と関連させた防災教育展開例、③避難訓練を想定した防災教育展開例の3つに分類できることが分かった。また、小学校で防災教育に関連した展開例を作成するには、学級活動、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間が主な対象教育活動となることが分かった。さらに、各教科等での防災教育を学ぶ内容の違いが明らかとなり、学級活動が震災対応そのものを学ぶ教育活動であることが明らかになった。

キーワード：小学校、防災教育、内容分析

1. はじめに

平成25年、文部科学省が学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開を作成した⁽¹⁾。

日本列島においては、平成7年1月の兵庫県南部地震から平成23年3月の東北地方太平洋沖地震の間に、人的被害を伴う震度6弱以上の地震が18回発生しており、震災大国である日本の現状から、震災に対する教育を進めていくことが求められている⁽²⁾。

防災教育で目指している「災害に適切に対応する能力の基礎を培う」ということは、「『生きる力』を育む」とことと密接に関連している。学校の教育活動全体を通じた防災教育の展開が必要とされているのである⁽³⁾。

防災教育として必要な知識や能力を児童生徒に身に付けさせるためには、その発達の段階に応じた系統的な指導が必要であるが、防災教育は、各教科のように、発達の段階に応じた目標や内容が示されておらず、各学校において指導の体系化が求められていた⁽⁴⁾。

そこで、文部科学省は、児童生徒等の発達の段階に合わせた防災教育の目標を設定するとともに、指導する内容の整理を行った⁽⁵⁾。そして、防災教育に関する指導計画の作成として、防災教育に関する指導計画の基本的な考え方、防災教育に関する指導計画の作成に当たっての配慮事項、学習指導要領等における主な防災教育関連記述例を示しており⁽⁶⁾、小学校における防災教育の展開例を17個作成した⁽⁷⁾。各都道府県の教育委員会等でも、教育現場において防災教育を推進する動きが進みつつある。

小学校における様々な教育活動と関連させた防災教育に関する先行研究として次の研究が見られる。

村田(2019)は、小学校における各教科等での防災教育の実践についてまとめており、社会科では秋吉(2019)、理科では稲葉(2019)と川路(2019)、総合的な学習の時間では樋口(2019)、特別活動では野本(2019)の実践について紹介している⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾⁽¹¹⁾⁽¹²⁾⁽¹³⁾。

この他にも、白井(2019)、江藤(2018)、石田(2017)、高木(2017)、上倉(2017)のように、社会科、保健、家庭科など、既存の教科の中で、防災教育をどのように位置づけて実践できるのかを検証している研究も見られるが、授業開発、授業実践の分析まで行っている研究は数例にとどまっており、ほとんど行われていないのが現状である⁽¹⁴⁾⁽¹⁵⁾⁽¹⁶⁾⁽¹⁷⁾⁽¹⁸⁾。

小林(2019)や此松(2018)のように、家庭科や理科と関連させた防災教育の研究も見られるが、小林(2019)は教科書の記述から、家庭科と防災教育との関連を、此松(2018)は学習指導要領の記述から、理科と防災教育との関連を明らかにした研究であり、各教科の中で、防災教育をどのように位置づけることができるのかを検討している段階の研究となっている⁽¹⁹⁾⁽²⁰⁾。

これらの先行研究から、既存の教科等と防災教育とを結びつけて実践する研究は進みつつあるが、まだそれほど多くの研究は行われていないといえる。特に、学級活動、生活科、総合的な学習の時間など、防災教育との関連が期待される教育活動での実践はまだ少ない。また、文部科学省は、学習指導要領から、防災教育に関連する記述例を示しており、阪上ら(2019)が、学習指導要領と防災教育との時代ごとの関連についてまとめているが⁽²¹⁾、それがどのように各教育活動と関連し、授業開発、授業実践の検証まで行っていくのか、実践の蓄積が求められている。

学習指導要領より、各教科等における防災教育との関連が示され、文部科学省をはじめ、各教育委員会でも防災教育展開例が作成され始めている。各教科等で、どのような防災教育展開例が作成されているのかを分析することで、小学校における防災教育の指導内容を把握し、実践への足掛かりとしていき

たい。本研究を通して、既存の教科等の枠組みの中で、防災教育がどのように実践できるのか、展開例を分析することで明らかにしていきたい。

II. 研究の目的

都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育展開例を収集し、分析することで、今現在の小学校で、どのような教育活動で、どのような内容の防災教育が行われているのか、その特徴を把握する。そして、小学校において防災教育を推進するために、防災教育展開例の内容と特徴より明らかになったことを基に、授業開発、授業実践へとつなげていきたい。

III. 研究の方法

都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育展開例を収集して分析する。収集資料として、神奈川県、長野県、福島県など10個の県で作成された展開例を取り上げる。なお、これらの県を取り上げた理由は、複数の教科等で防災教育展開例が掲載されているためである。

研究方法として、各都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている展開例について、県ごとの防災教育展開例の内容を把握してその傾向をつかみ、教科等や単元名、指導内容、特徴的な事例などの観点から、防災教育展開例の特徴を明らかにする。

IV. 各都道府県教育委員会作成の防災教育展開例の内容

各都道府県でどのような防災教育が行われているのか、都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている展開例の内容を詳しく見ていく。各都道府県教育委員会が作成した防災教育展開例を分析したところ、防災教育展開例として、①その地域独自の防災教育展開例、②各教科等と関連させた防災教育展開例、③避難訓練を想定した防災教育展開例の3つに分類できることが分かった。

①その地域独自の防災教育展開例は、福島県と神奈川県が作成している。

(1) 福島県では、放射線教育に関する学習指導案を作成している⁽²²⁾。小学校低・中学年の学級活動で、「ほうしゃせん なにに気をつければいいの」、「放射性物質の飛散と地域の現状をふまえて」、小学校中・高学年の学級活動で、「放射線から身を守るためにできること」、「健康的な生活を送るために」、「これからも健康で生活するために必要なこと」、「放射線から身を守り健康的な生活を送ろう」の展開例が作成されている。

全ての展開例が学級活動での授業を想定している。展開例は、本時のねらいを設定し、導入、展開、終末という流れとなっている。教職員の支援等で副読本等との関連が書かれており、副読本の活用について示されている。

(2) 神奈川県では、津波防災に関する展開例を作成している⁽²³⁾。小学校1・2学年用「津波がきたらどうするの?」、小学校3・4学年用「もし私たちのまちに津波がきたら?」、小学校5・6学年用「オリジナル津波防災マップをつくろう!」の展開例を作成している。

特定の教科等を想定した展開例ではなく、社会科や理科などの関連教科や、学級活動、総合的な学習の時間等との関連を図り、教科横断的、総合的に取り組むことをポイントとして挙げている。どの展開例でも、展開1、展開2、展開3の構成となっており、一斉学習、グループ学習、発表活動などが想定されている。

②各教科等と関連させた防災教育展開例は、多くの教育委員会が様々な教育活動で作成している。

各都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育に関する展開例を収集し、分析したところ、防災教育冊子の中で、様々な教育活動で防災教育に関連する単元を取り上げて、展開例を作成していることが分かった。掲載されている展開例について、大阪府は3個、青森県は3個、秋田県は2個の防災教育展開例が作成されており、それほど多くの展開例が示されているわけではない。

ただし、愛知県のように 14 個もの防災教育に関する指導例を作成している県もある。

教科等	長野県	福島県	熊本県	愛知県	広島県	大阪府	青森県	秋田県	計(個)
学級活動	6	2	10		5		1	2	26
社会科	1	1		2	2	1			7
理科	1			3	1	1			6
生活科		1		2		1			4
総合的な学習の時間	1	1					2		4
体育	1	1		1(保健)					3
道徳	1				1				2
国語				1					1
算数				3					3
音楽				1					1
家庭				1					1
計(個)	11	6	10	14	9	3	3	2	58

図1：都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている教科等における展開例の数

(1) 長野県では、「学校における防災教育の手引き」が平成 25 年に作成された⁽²⁴⁾。この中で、学級活動 6 個、社会科 1 個、理科 1 個、総合的な学習の時間 1 個、体育 1 個、道徳 1 個の展開例が掲載されている。

例えば、「じしんになったらどうするの」では、題材名、目標、展開(例)が示されている。学級活動では、かじ、じしん、登下校中、給食の配膳中、体育館、地震と二次災害と、地震に対する対応について、場面ごとに系統立てた展開例を作成している。

(2) 福島県では、「ふくしま放射線教育・防災教育指導資料活用版」が平成 29 年 3 月に作成された⁽²⁵⁾。その中に、学校防災の新たな展開として、防災教育指導案が掲載されている。この中で、学級活動 2 個、社会科 1 個、生活科 1 個、総合的な学習の時間 1 個、体育 1 個の展開例が掲載されている。

例えば、「地震が起こったら？」の展開例では、ねらい、指導計画、展開、評価、その他が示されている。展開として、子どもに地震のときの様子をより分からせるために、紙芝居を活用してそのときの状況を想像させている。紙芝居 1 では、自分が一人で留守番をしている状況。紙芝居 2 では、タンスや TV が倒れている状況で、机の下に身を隠し、座布団で頭を覆い、命を守った様子。紙芝居 3 では、校内に一人である場面を想像させている。

(3) 熊本県では、「学校防災教育指導の手引き」が平成 30 年 3 月に作成された⁽²⁶⁾。この中で、いつでもどこでも将来も自分の命を守り抜く【自助】、助け合い、励ましあい、志高く【共助】の枠組みの中で、学級活動 10 個の展開例が掲載されている。

例えば「地震災害から身を守る」では、カリキュラム・マネジメントの視点、ねらい、展開、活用資料等が示されている。カリキュラム・マネジメントの視点では、学級活動「地震災害から身を守る」に関連させて、道徳「生命尊重」、学校行事「避難訓練」を結び付けている。

(4) 愛知県では、「あいちの防災教育マニュアル」が平成 29 年 11 月に作成された⁽²⁷⁾。この中で、社会科 2 個、理科 3 個、生活科 2 個、体育(保健) 1 個、国語 1 個、算数 3 個、音楽 1 個、家庭科 1 個の指導例が掲載されている。

例えば、小学校 3 年社会「学校のまわり」の指導例では、防災教育のねらいと具体的な指導、発展、参考資料、社会の関連する単元、第 3 学年における他教科の関連する単元について書かれている。

(5) 広島県では、「自然災害に関する防災教育の手引～主体的に行動する態度を育成するために～」が平成 25 年 3 月に作成された⁽²⁸⁾。この中で、学級活動 5 個、社会科 2 個、理科 1 個、道徳 1 個の展開例が掲載されている。

例えば、小学校 2 年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」の展開例では、地震の経験や避難訓練の反省をした後、学校以外のところで地震が起きたとき、地震がおさまったとき、

家が壊れているときなどの対応について考える学習を展開している。

(6) 大阪府では、「学校における防災教育の手引き—大阪の子どもたちを災害から守るために—（改訂2版）」が令和元年6月に作成された⁽²⁹⁾。この中で、社会科1個、理科1個、生活科1個の展開例が掲載されている。

例えば、「まちたんけん」の展開例では、ねらい、指導計画、展開、評価、指導のポイントが示されている。指導のポイントには、まちたんけんのポイントとして、安全に関連することを示す。学習活動3で、交流活動に取り組んだり、板書によって子どもたちの発言をまとめたりする。学習活動4で、指導者が撮影した写真などを電子黒板やプロジェクタ等を活用して視覚的な支援も取り入れるようにする。お家の人に教えたいことを手紙やカードにして書くことで、学習を振り返るようにするなどが、指導のポイントとして示されている。

(7) 青森県では、「学校における防災教育指導資料」が平成24年3月に作成された⁽³⁰⁾。この中で、学級活動1個、総合的な学習の時間2個の展開例が掲載されている。

例えば、「じしんがおきたらどうする？」では、題材名、題材の目標、展開例、他教科や行事等との関連が示されている。展開例では、学校、通学路、買い物中、家での地震の危険性とその対応方法が示されている。また、他教科や行事等との関連では、生活科の学校探検などで危険な場所について調べる活動の後と関連させる。地震を想定した避難訓練の事後指導と関連させるとしている。

(8) 秋田県では、「学校における防災教育の手引き」が平成25年11月に作成された⁽³¹⁾。この中で、学級活動2個の展開例が掲載されている。

例えば、「休み時間などに大地震がおこったら(2)」では、教科名等、ねらい、指導計画、展開、評価が示されている。休み時間の場面として、廊下や階段にいる時、トイレにいる時、運動場や中庭にいる時、図書館にいる時の避難の仕方についてまとめさせている。清掃時間中に大地震が起きた時、理科室、家庭科室、体育館、パソコンルーム、音楽室、図書室での危険について考えさせている。

③避難訓練を想定した防災教育展開例は、山口県が作成している。

山口県では、「防災教育ハンドブック（改訂版）～「生きる力」を育む防災教育の推進～」が平成24年3月に作成された⁽³²⁾。指導展開例として、「緊急地震速報を利用した避難訓練」の他、社会科1個、理科1個、道徳1個の展開例が掲載されている。各教科等の単元名は、小学校社会第3・4学年「風害から暮らしを守る」、小学校理科第5学年「台風の特徴を知り、台風対策について話し合おう」、小学校道徳第5学年「公德心4－(1) 資料名 米国人には理解不能、大地震でも揺るがない日本」である。

なお、避難訓練は特別活動の「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の中で、学校行事に分類されると思われるが、本論文では、教科等（学級活動）と学校行事（避難訓練）に区別した。

この中で、避難訓練に関わる展開例は、緊急地震速報を利用した避難訓練を想定した指導展開例である。最初に、緊急地震速報についての基礎的な知識として、簡単な仕組みや地震発生時までの時間、携帯電話による受信の方法について学習する。次に、緊急地震速報受信後の行動について、どのように行動すればよいのかを考える。最後に、実際に地震が発生したことを想定して、緊急地震速報を聞いた後、避難訓練を行う。

V. 各都道府県教育委員会作成の防災教育展開例の特徴

各都道府県作成の防災教育展開例の特徴として、①地域の特性を生かした防災教育、②教科等での防災教育の展開、③防災教育展開例の特徴的な事例の3点についてまとめていく。

①地域の特性を生かした防災教育

各教科等にとらわれることなく、その地域独自の防災教育展開例を作成している県では、地域の特性が関係しているといえる。福島県では、東日本大震災での原発事故の影響から、放射線に関する学習指導案を、神奈川県では、沿岸地域に面していることから、地域の特徴として津波が発生する可能性が高く、津波防災に関する展開例を作成しているといえる。

また、福島県での放射線教育に関する学習指導案では、小学校低・中学年で、放射線に対して気をつけること、小学校中・高学年で、放射線から身を守るためにできること、健康的な生活を送るためになどの観点から展開例が作成されている。つまり、放射線について知り、放射線への対応を考え、今度の生活に向けてという順序で系統的に学習指導案が作成されている。神奈川県では、津波防災に関する展開例を作成し、津波が来たときの対応について学習するとともに、指導教材を作成している。1・2年生で津波の起こり方や対応について学び、3・4年生で地域の地形的特徴より、場面ごとの避難方法や避難場所を考え、5・6年生で津波防災マップの作成へとつなげている。

これらの展開例から、防災教育展開例としては、知る、考える、行動するという順序で学習を展開していくことが、発達段階に沿って、系統立てた学習をする上での一つの方法として考えられていることが分かった。また、福島県の放射線教育の展開例のように、知ること、対応について考えること、今後に向けて行動するという順序で学習を行っていくことは、放射線以外の災害にも生かすことができそうである。例えば、地震の特徴について正しく知っておくことが、地震発生時の適切な対応につながり、地震の被害を学ぶことで、常日頃より、いざというときの備えをしていく行動へと変わっていく。

②教科等での防災教育の展開

各教科等での防災教育展開例について、教育活動ごとに作成された展開例の数を見てみると、学級活動が26個、社会科が7個、理科が6個、生活科が4個、総合的な学習の時間が4個、体育が3個、道徳が2個、国語が1個、算数が3個、音楽が1個、家庭科が1個となっている。算数の3個と国語、音楽、家庭科の1個は全て愛知県の指導例である。このことから、防災教育を行うには、学級活動、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間が主な対象教育活動となってくることが分かった。

教科等	単元名
学級活動	第1学年学級活動「かじになったらどうするの」、第1学年学級活動「じしんになったらどうするの」、第2学年学級活動「登下校中に地震になったらどうするの」、第3学年学級活動「給食の配膳中に地震が起こったら」、第4学年学級活動「体育館にいるとき地震が起こったら」、第6学年学級活動「地震と二次災害(火災)」、小学校低学年学級活動「地震が起こったら?」、小学校中・高学年学級活動「いざという時の備えは?」、幼稚園・小学校低学年学級活動「カードで遊ぼう」、小学校1年～3年学級活動「地震災害から身を守る」「津波災害から身を守る」「風水害から身を守る」「火山災害から身を守る」、小学校4年～6年学級活動「非常持ち出し袋を作ろう」「防災マップを見てみよう」「わが家の防災対策をしよう」、小学校1年～3年学級活動「避難所生活で大切なこと」、小学校4年～6年学級活動「避難所生活で私たちができること」、小学校2年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」、小学校3年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」、小学校4年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」、小学校5年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」、小学校6年生学級活動「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」、小学校1・2学年学級活動「じしんがおきたらどうする?」、第4学年学級活動「休み時間などに大地震がおこったら(2)」、第6学年学級活動「町の中でぐらっときたら(2)」
社会科	第4学年社会「風水害から暮らしを守る」、小学校中学年社会科「安全な暮らしとまちづくり」、小学校5年生社会「わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について考える」、小学校5年生社会「わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について調べる」、小学校社会科(4年)「大和川のつけかえ」、小学校3年生社会「学校のまわり」、小学校5年生社会「情報化した社会とわたしたちの生活」
理科	第5学年理科「台風の特徴と台風対策」、小学校6年生理科「土地のつくりと変化(火山と地震)について考えをもつようにする」、小学校理科(5年)「突然、大雨にあったらどうする?—総務省消防庁「チャレンジ!防災48」を活用して—」、小学校3年理科「光をあてたところの明るさとあたたかさ」、小学校4年理科「水と空気のあたたまり方」、小学校6年理科「てこのはたらき」
生活科	小学校低学年生活科「どきどきわくわくまちたんけん」、小学校生活科(1年及び2年)「まちたんけん」、小学校2年生生活「春の町ではっけん」「わたしの町はっけん」
総合的な学習の時間	第3学年総合的な学習の時間「雪がい・風水がいマップを作ろう」、小学校中学年総合的な学習の時間「地域の防災マップをつくろう」、小学校3・4学年総合的な学習の時間「雪がい、風水がいマップを作ろう」、小学校5・6学年総合的な学習の時間「津波がきたらどうする?～シミュレーション～」

体育 (保健)	第5学年体育「私たちの防災サーキットトレーニング」、小学校高学年体育科「けがの防止と手当—学校や家庭、地域におけるけがの防止」、小学校5年保健「自然災害にそなえよう」
道徳	第4学年道徳「4-(1) 公德心 資料名米国人には理解不能、大地震でも揺るがない日本」、小学校5年生道徳「他の生命を尊重する」
国語	小学校4年国語「みんなで新聞をつくろう」
算数	小学校4年算数「面積」、小学校6年算数「速さ」、小学校6年算数「みらいへのつばさ」
音楽	小学校6年音楽「花は咲く」
家庭科	小学校6年家庭科「思いを形に生活に役立つ布製品」

図2：都道府県教育委員会作成の防災教育冊子に掲載されている教科等の単元名

展開例の内容を見てみると、防災教育のねらいと評価を設定し、指導内容については、導入、展開、まとめという順序で展開例は作成されており、県によって大きな違いはないといえる。教科等で見てみると、生活科では、学校探検、町探検の単元と関連させて、防災の視点を持ちながら探検をすること。社会科では、防災の視点を持ちながら、学校まわりや町の様子、市の様子を調べる。火事や地震、風水害などの災害について、過去に起きた災害を調査し、安全な暮らし方について学ぶこと。学級活動では、地震が起きたときの対応について、学校、登下校、家庭などの場面ごとに学習すること。また、災害に対する備えや二次災害について学ぶこと。理科では、台風や大雨の特徴と対策、災害による土地の変化について学習すること。体育では、けがの防止と手当に関する学習などが、各教科等での防災教育と関連した展開例の内容として多く示されている。

防災教育を効果的に指導するために、教育活動ごとに防災教育の内容の違いを踏まえて、様々な教科等に関連させながら、教科横断的に防災教育が実践できるのかを考えていくことは、防災教育を進める上での必要な観点になってくるだろう。

③防災教育展開例の特徴的な事例

長野県のように、学級活動において、発達段階に沿って系統立てた展開例を作成している県もある。場面ごとに震災対応について学んでいくことで、6年間を通して、災害に対する対応について学習できるようになっている。広島県でも、学級活動で、「心身ともに健康で安全な生活態度を形成する」という単元において、2年生、3年生、4年生、5年生、6年生の展開例を作成し、系統立てた展開例を作成しているといえる。

学級活動では、災害に対する対応について、場面を変えて学習をしていく取り組みが、発達段階に沿った系統立てた防災教育展開例として示されている。他の教科等では、系統立てた展開例が示されているものはまだ多く見られないことから、発達段階に沿ってどのような防災教育が展開できるのか、教科等のねらいや内容を精査して、発達段階に沿った展開例を示していくことが課題となってくるだろう。

熊本県では、いつでもどこでも将来も自分の命を守り抜く【自助】と、助け合い、励まし合い、志高く【共助】という区分に分けて、それぞれの展開例を作成している。地震災害、津波災害、風水害、火山災害と、多くの災害についての展開例を作成していることや、避難所生活での展開例を作成していることも、熊本県の特徴だといえる。

自助や共助という枠組みの中で防災教育展開例を作成することや、地域の実情に合わせた災害種に応じた防災教育を実践していくことは、防災教育を実践する上で考慮をしていきたい視点だといえる。共助という枠組みでは、避難所生活をテーマとして取り上げている。小学校1年から3年では「避難所生活で大切なこと」、小学校4年から6年では「避難所生活で私たちができること」というテーマを設定している。避難所生活の様子を知り、避難所生活の人たちの気持ちを考え、自分たちにできることなど日頃からの心がけの大切さについて学んでいる。

ここでも、知る、考える、行動するという順序で展開例が作成されている。そして、行動することについては、災害に対する備えをしていくことにつなげていることは、参考にしたい点である。

愛知県では、算数や理科、音楽や家庭科など、他の県では作成されていない教科についても指導例を作成しており、各教科等で防災教育に関連する学習を行うとすると、どのような学習が考えられるのか、防災教育との関連を示している。

主な対象教育活動以外の教科等では、作成されている防災教育展開例の数が少ないことが分かった。

文部科学省は、防災教育を進めるために、学校の教育活動全体を通じた防災教育の必要性を述べている。どのような教科等で、どのような防災教育が実践できるのか、研究の蓄積が求められるだろう。

VI. おわりに

各都道府県教育委員会が作成した防災教育冊子に掲載されている、小学校防災教育展開例を分析したところ、防災教育展開例として、①その地域独自の防災教育展開例、②各教科等と関連させた防災教育展開例、③避難訓練を想定した防災教育展開例の3つに分類できることが分かった。また、小学校において防災教育に関連した展開例を作成するには、学級活動、社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間が主な対象教育活動となることが分かった。特に、生活科や総合的な学習の時間は、他教科と関連させて、教科横断的な実践がしやすい教育活動であるといえる。生活科や総合的な学習の時間を柱として、他の教科等と関連させながら防災教育を学んでいくことは、小学校において防災教育を進める一つの手立てとして考えられそうである。

展開例を分析してみると、各教科等において防災教育を学ぶ内容の違いが明らかになった。特に、学級活動が震災対応そのものを学ぶ教科であることが分かった。学級活動では、地震が起きたときの対応について、様々な場面ごとに学習をしたり、災害に対する備えや二次災害について学んだりすることを想定した展開例が作成されている。長野県が作成した学級活動の展開例は、学年ごとに場面を変えて対応を考えるようになっており、6年間を見通した系統立てた展開例が作成されている。

学級活動において防災教育に関連した展開例を作成するには、授業中、休み時間、登下校、家にいるときなど、場面をしっかりと設定した上で、場面ごとの対応について考えることが大切である。震災が起きる前に、どのような場所で、どのような危険があり、どのように対応していくことが望ましいのかを考えておくことが、いざというときの備えとして重要になるだろう。そして、低学年では授業中、中学年では授業中以外、高学年では震災に対する備えなど、発達段階に応じた系統的な指導をしていくことが望まれる。学年ごとに担任が変わる現在の小学校では、系統立てた防災教育を実践していくことは難しい現状があるといえるので、工夫が求められる。

また、地震災害、津波災害、風水害、火山災害など、災害の種類によっても対応の仕方が異なるといえる。その地域の特性を踏まえて、どのような災害に対して備える必要があるのかを考えた展開例を作成する必要があるといえるだろう。さらに、防災教育展開例として、知ること、対応について考えること、今後に向けて行動するという順序で学習していくことは、防災教育を進める一つの手立てとして行われていること、そして行動することについては、災害に対して事前に備えることとつなげて考えていくことは、参考にしたい観点だといえる。

各都道府県教育委員会作成の防災教育展開例より、地震のときの注意点は県によって大きな違いはなく、共通の注意点が示されている。

緊急地震速報が鳴ったらすぐに机の下にもぐり机の脚をおさえる。避難する時は頭を守るために紅白帽子をかぶる。地震のときに気を付けることには、机の下に隠れる、ランドセルで頭を守る、タンスが倒れるかもしれないので遠ざかる、TVや本が落ちてきそうなので離れる、窓ガラスが割れたら歩けない。「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」「飛び出してこない」を合い言葉として、命を守る⁽³³⁾。放送や先生の指示をよく聞く。避難に必要なものを確認する。身を隠せるものがないときにどう対応するかを考える。校内の危険箇所を確認する。避難経路、避難場所を確認する。避難場所に集まったら、静かにする。3つのポイント「頭を守ること」「揺れている間は動かないこと」「危険なところからはやく離れること」を確認して訓練を行う。「お・は・し・も」の意味を確認する。安全に避難するために、「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難することを確認する。

どのような教育活動であっても、震災対応として共通に教えることはしっかりおさえて指導していく必要があるといえるだろう。

参考文献

- 1) 文部科学省(2013)『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』
- 2) 同上 1) P.3

- 3) 同上 1) P.8
- 4) 同上 1) P.9
- 5) 同上 1) P.9
- 6) 同上 1) PP.13-17
- 7) 同上 1) PP.80-117
- 8) 村田翔 (2019) 『防災教育の実践研究に関する動向』 広島大学大学院教育学研究科紀要第二部第 68 号
- 9) 秋吉かおり (2019) 『社会科における防災教育の推進—「自然災害から人々を守る」(第四学年)の事例から—』 初等教育資料令和元年六月号、981、PP.28-31
- 10) 稲葉裕己 (2019) 『第五学年「流れる水の働きと土地の変化」における取組』 初等教育資料令和元年六月号、981、PP.170-173
- 11) 川路美沙 (2019) 『第五学年「天気の変化」における取組』 初等教育資料令和元年六月号、981、PP.174-177
- 12) 樋口良 (2019) 『総合的な学習の時間における防災教育の推進』 初等教育資料令和元年六月号、981、PP.36-39
- 13) 野本真理 (2019) 『特別活動を核とした防災教育の推進—子供の自助、共助の気持ちを高める—』 初等教育資料令和元年六月号、981、PP.40-43
- 14) 白井克尚、松本卓也 (2019) 『小学校社会科における地域教材を生かした防災教育の授業構成と実践分析—第 5 学年単元「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」の場合—』 東邦学誌 48 巻 1 号
- 15) 江藤真美子、山田政寛 (2018) 『健康教育と防災教育をつなぐヘルスリテラシー教育デザインとその効果』 日本教育工学会論文誌 41 巻 4 号
- 16) 石田綾子、中山節子 (2017) 『小学生を対象とした災害時を想定した調理実習の教材開発と授業分析』 千葉大学教育学部研究紀要第 66 巻 1 号
- 17) 高木幸子 (2017) 『小学校家庭科において防災教育の視点から学ぶ授業内容の検討』 新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編 10 巻
- 18) 上倉絢美 (2017) 『小学校家庭科における防災教育の授業実践の提案：防災備蓄品を利用した調理実習を通して』 初等教育論集 18 巻
- 19) 小林裕子、永田智子 (2019) 『家庭科教科書における「防災・災害に関する食教育」の記述分析—現行の小・中・高等学校家庭科教科書を対象に—』 四天王寺大学紀要第 68 号
- 20) 此松昌彦 (2018) 『理科新学習指導要領からの防災教育』 和歌山大学災害科学教育研究センター研究報告 2 巻
- 21) 阪上弘彬、村田翔 (2019) 『日本の学校教育における防災教育の展開と特徴—阪神淡路大震災と東日本大震災の 2 つの災害を視点に—』 兵庫教育大学研究紀要第 55 巻
- 22) 福島県教育委員会 (2017) 『ふくしま 放射線教育・防災教育指導資料 活用版』
- 23) 神奈川県教育委員会 (2012) 『学校における防災教育指導資料』
- 24) 長野県教育委員会 (2013) 『「学校における防災教育の手引き」～平成 24 年度実践的防災教育総合支援事業報告書～』
- 25) 同上 22)
- 26) 熊本県教育委員会 (2018) 『地域へ、全国へ、そして未来へつなげる熊本県の防災教育 学校防災教育指導の手引き』
- 27) 愛知県教育委員会 (2017) 『あいちの防災教育マニュアル』
- 28) 広島県教育委員会 (2013) 『自然災害に関する防災教育の手引～主体的に行動する態度を育成するために～』
- 29) 大阪府教育委員会 (2019) 『学校における防災教育の手引き—大阪の子どもたちを災害から守るために— (改訂 2 版)』
- 30) 青森県教育委員会 (2012) 『学校における防災教育指導資料』
- 31) 秋田県教育委員会 (2013) 『学校における防災教育の手引き』
- 32) 山口県教育委員会 (2012) 『ハンドブック (改訂版) ～「生きる力」を育む防災教育の推進～』

33) 同上 22)

(受理：2020年6月30日)

(掲載決定：2020年8月25日)